

2018 年度6月 石井ダム～烏原水源池 定例観察会報告

日 時	2018年6月3日(日) 9:30～13:00	記録者: 熊谷信哉
探 鳥 地	神戸電鉄鈴蘭台駅～石井ダム～烏原水源池	
参 加 人 数	在校生 19名 顧 問 2名 相談役 1名	総計 22名 天候: 快晴
観 察 概 要	<p>5月観察会は雨で中止になったが、今回は梅雨入り目前の好天気。水分補給に気をつけながら烏原水源池まで約5^{キロ}の行程。1年生が8人も参加してくれ、堀池、豊辺両顧問、平林相談役の説明にも力が入る。</p> <p>大金鶏菊(おおきんけいぎく)が咲き誇る中、まず尾を振りながらキセキレイが登場。神戸電鉄の電柱の頂上をあちこち渡り、大サービス。めったに姿を見せないウグイスまでが、木々の間を巡りながら、のどを震わせ、日本三鳴鳥の名に恥じない美声を披露していた。鳥たちは子育てに忙しいはずだが、我々は「鳥好きの人間たちが分かるのかなあ」と鼻をヒクヒク。石井ダムではカイツブリの浮き巣の上に嘴の赤い2羽のヒナを発見。親鳥は巣の補修に大忙しの様子だった。</p> <p>胴体部分を食いちぎられたシロスジカミキリの巨大な頭部を拾ったり、小ぶりながら美しいラミーカミキリも出現。2カ月ぶりの探鳥会も活気に満ち、満足のいける集いとなった。</p> <p>【下見会=5月27日=で観察できた鳥】 アオサギ、イソヒヨドリ、ウグイス、オオルリ、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カワセミ、キセキレイ、コゲラ、シジュウカラ、スズメ、セグロセキレイ、センダイムシクイ、ツバメ、トビ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ホオジロ、ムクドリ、メジロ、ヤマガラ の 22 種</p> <p>【下見会で声を聞いた鳥】 アオゲラ、キビタキ、サンコウチョウ、ホトトギス、ソウシチョウ の 5 種</p> <p>【定例観測会で観察できた鳥】 アオサギ、イソヒヨドリ、ウグイス、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カワセミ、キセキレイ、シジュウカラ、スズメ、セグロセキレイ、センダイムシクイ、ツバメ、トビ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロ、ヤマガラ、カワラバト、ソウシチョウ の 21 種</p> <p>【定例観測会で声を聞いた鳥】 キビタキ、サンコウチョウ の 2 種 (探鳥確認メモ 春～夏バージョン)</p>	
次 回 予 定	7月は今のところ予定なし。8月4日(土)夕刻、ツバメのねぐら入り。加古川河口。詳しくは後日、連絡します。	

《野鳥小ばなし》



キセキレイ
鏡原健さん撮影

水浴び、砂浴び、蟻浴び、煙浴び

命綱の羽毛手入れで鳥たちのこだわり「入浴法」

羽毛は断熱と防水により体温を保持する重要な役割がある。言うまでもなく飛行器官としての働きもあり、鳥たちにとって念入りな手入れが欠かせない。鳥たちのきれい好きは、このためだ。「水浴び」をしてホコリや寄生虫を取り除くと、羽づくろいの時、脂の伸びがよくなるという効果がある。



ラミーカミキリ
吉都紀都喜子さん撮影

キジのように水浴びをしない鳥は、乾いた地面で翼を震わせて砂や土を浴びる「砂浴び」を行う。カラスは頭が良く、「カラスの行水」の他、雪を水の代わりに浴びる「雪浴び」もする。また、蟻を羽毛にこすりつけたり、巣の上に伏せて蟻にたからせる「蟻浴び」(蟻の持つ蟻酸によってハジラミを退治する)、銭湯の煙を浴びる「煙浴び」など、カラスならではの実にさまざまな入浴方法を実践している。どれをやろうとカラスの勝手でしょ。

《参考》 『身近な野鳥観察ガイド』 文一総合出版